

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成22年10月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成22年9月分(平成22年8月30日～10月3日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6	0.01	0.31		10	百日咳	22	0.06	0.06	→
2	RSウイルス感染症	119	0.33	0.18	↑	11	ヘルパンギーナ	82	0.23	0.56	↓
3	咽頭結膜熱	441	1.23	0.45	→	12	流行性耳下腺炎	527	1.46	0.64	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	163	0.45	0.54	→	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
5	感染性胃腸炎	1,291	3.59	3.32	↘	14	流行性角結膜炎	112	1.18	1.51	→
6	水痘	254	0.71	0.50	↘	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	63	0.18	0.45	↓	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.08	
8	伝染性紅斑	9	0.03	0.12		17	マイコプラズマ肺炎	14	0.13	0.23	↘
9	突発性発しん	188	0.52	0.70	→	18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成22年9月分(9月1日～9月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	52	2.26	2.27	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	140	6.67	5.19	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.52	0.64	↓	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	31	1.48	1.08	↗
21	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.57	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.25	
22	淋菌感染症	20	0.87	1.02	→						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 RSウイルス感染症 (29件 119件)
急減疾患 手足口病 (174件 63件)
ヘルパンギーナ (289件 82件)
性器ヘルペスウイルス感染症 (24件 12件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13,14	19～22	15～18,23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	69	結核(69)〔西部保健所(14), 西部東保健所(8), 東部保健所(3), 北部保健所(3), 広島市保健所(18), 呉市保健所(21), 福山市保健所(2)〕
三類	25	細菌性赤痢(1)〔広島市保健所〕, 腸管出血性大腸菌感染症(24) O157(14)〔西部保健所(1), 東部保健所(1), 広島市保健所(3), 呉市保健所(7), 福山市保健所(2)〕, O26(3)〔広島市保健所(2), 呉市保健所(1)〕, O103(2)〔広島市保健所〕, O111(1)〔広島市保健所〕, O121(4)〔広島市保健所〕
四類	4	日本紅斑熱(4)〔東部保健所〕
五類全数	10	アメーバ赤痢(3)〔広島市保健所〕, ウイルス性肝炎(2) B型(1)〔広島市保健所〕, C型(1)〔広島市保健所〕, 急性脳炎(2)〔広島市保健所〕, 破傷風(1)〔福山市保健所〕, 風しん(2)〔広島市保健所〕

3 一般情報

(1) インフルエンザの予防接種について

現在, 新型インフルエンザの流行は沈静化していますが, これからインフルエンザの流行シーズンを迎え, 再流行の可能性も続いています。また, インフルエンザによる重症化のリスクは変わるものではないことから, 重症化防止及び予防には, 流行シーズンに入る前のインフルエンザの予防接種が有効です。

予防接種対象者	すべての県民の方 ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが, 接種後, 腫れや発熱などの症状が見られたり, まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあり, リスクを100%排除することはできません。この点を御理解いただいた上で, 個人の選択により接種を受けるようお願いいたします。
接種するワクチン	季節性インフルエンザ(A香港型及びB型)と新型インフルエンザの株が混合された3価ワクチンなど
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン接種には, 原則予約が必要です。 ・ 接種の申込みは, かかりつけ医又は「救急医療Net Hiroshima」(http://www.qq.pref.hiroshima.jp)でインフルエンザワクチンの接種できる医療機関を確認の上, 医療機関にご相談ください。 ・ 接種費用は, 市町が定める額となりますので, 医療機関にお問い合わせください。 ・ 市町村住民税非課税世帯に属する方など市町による費用負担の軽減措置については, お住まいの市町の担当窓口へお問い合わせください。

(2) 麻しん風しんの定期予防接種について

麻しんは「はしか」とも呼ばれ, 発疹と発熱を主症状とする古くから知られた感染症ですが, 医療の進歩した現在でも, 発症した場合には, 死に至る危険もある重大な疾患です。

麻しんの発症はワクチンを接種することで予防することができ, ワクチンを接種した人の95%以上は免疫を獲得するといわれています。次の定期予防接種対象者の方は, 平成23年3月末までは, 無料で接種することができますので, 是非この機会に風しんと併せて予防接種しましょう。

平成22年度定期予防接種対象者	1期	生後12月から24月未満の者
	2期	小学校就学前の1年間にあたる者(平成16年4月2日～平成17年4月1日の間に生まれた方)
	3期	中学校1年生に相当する年齢の者(平成9年4月2日～平成10年4月1日の間に生まれた方)
	4期	高等学校3年生に相当する年齢の者(平成4年4月2日～平成5年4月1日の間に生まれた方)
	麻しんの発症を確実に防ぐためには, 2回の予防接種が必要とされていますが, 平成19年4月頃から, 幼少期に1回の予防接種機会しかなかった世代を中心に麻しんが流行しました。このことを踏まえ, 平成20年4月1日から5年間, 1期及び2期の対象者に加え, 予防接種を1回しか受けていない年齢層(3期及び4期)が追加されました。	
接種するワクチン	麻しん	麻しん風しん混合ワクチン 又は 麻しんワクチン
	風しん	麻しん風しん混合ワクチン 又は 風しんワクチン
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻しん風しんは, 乳幼児期早期にかかってしまうことが多いため, 1期の予防接種は, お母さんの免疫がなくなる生後12月以降なるべく早期に接種しましょう。 ・ 来年度, 小学校に入学するお子さんは, 入学する前までに2期の予防接種を受けましょう。 ・ 既に麻しん又は風しんに罹ったお子さんは, 罹っていない方の予防接種を受けてください。 ・ 既に麻しんと風しんの両方に罹った等の特別な場合を除いては, 麻しん風しん混合ワクチンと単抗原ワクチンのいずれかを選択して接種することができますが, お子さんの体への負担軽減等の観点から, 厚生労働省は, 混合ワクチンの接種を勧めています。 ・ 定期予防接種に関しては, 住民票のある市町予防接種担当課へお問い合わせください。 	

(3) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症が, 8月の15件に引き続き, 9月も24件の発生がありました。

手洗いの励行, 調理器具の洗浄消毒, 食品の十分な加熱調理, 生肉を触る箸と食べる箸を分ける等, 注意が必要です。